

クラウド型介護支援システム

運用コスト削減で利用者増

クラウド型介護支援システム「ケア樹」の開発・販売を手掛けるグッドツリー（仙台市）は、イニシャル、及びランニングコストを抑えることで導入施設を増やしている。介護報酬減の影響により間接コストの削減を検討する事業者からの問い合わせが増加している。西原翼社長に話を聞いた。



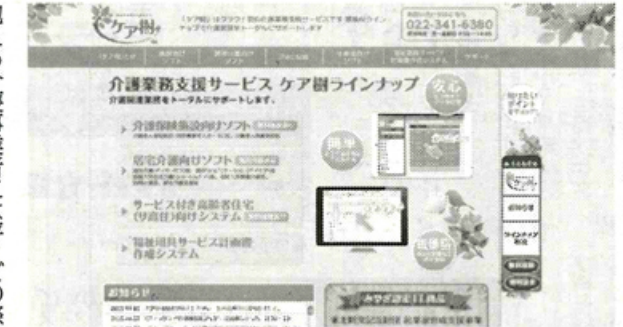
グッドツリー
西原翼社長

現状のサービス数や利用者数は、西原 現在、施設系・在宅系を含め、12種類のサービスを揃えている。業界大手に比べると導入の数はまだ少ない

が、前年同期に比べ10倍以上の伸びとなっている理由が、利用者が増えている。CSはシステム販売側にとっても、一度に大きな売上が立つが、利用者側にとっては、月額4980円という負担は大きい。また、iPadなどの端末も、どこでも使えて、導入時に大きな負担をかけることなく、毎月の運用コストを減らしている。

抱える介護事業者には、更新される部分については、画面にもわかりやすく表示している。今後、側面の運用コストを下げることが、結果的に利用者にとってのメリットになる。

更新される部分については、画面にもわかりやすく表示している。今後、側面の運用コストを下げることが、結果的に利用者にとってのメリットになる。



「ケア樹」のホームページ

月の運用コストがかかる点に不満を感じる事業者が多い。クラウド型が安い料金で提供できるのは、システム会社側が一括でサポートを借り、必要に応じて増量していただけるため余分なコストがかからないからだ。

また、今年の介護保険制度改正・報酬改定などの際も、更新は自動で追加工賃も発生しない。更新される部分については、画面にもわかりやすく表示している。今後、側面の運用コストを下げることが、結果的に利用者にとってのメリットになる。

また、今年の介護保険制度改正・報酬改定などの際も、更新は自動で追加工賃も発生しない。更新される部分については、画面にもわかりやすく表示している。今後、側面の運用コストを下げることが、結果的に利用者にとってのメリットになる。

タッチパネルで操作容易に

「ケア樹」は、介護事業者から6月に、海外展開も積極的に進めたい。

「サポート体制は、基本的にはサポートセンターで電話やメールで対応している。初期の契約自体も電話でということが多い。利用者が増えてきたことで、知名度・信頼度が向上してきたからだと前向きに捉えている。システム会社側は、画面にもわかりやすく表示している。今後、側面の運用コストを下げることが、結果的に利用者にとってのメリットになる。

また、今年の介護保険制度改正・報酬改定などの際も、更新は自動で追加工賃も発生しない。更新される部分については、画面にもわかりやすく表示している。今後、側面の運用コストを下げることが、結果的に利用者にとってのメリットになる。

また、今年の介護保険制度改正・報酬改定などの際も、更新は自動で追加工賃も発生しない。更新される部分については、画面にもわかりやすく表示している。今後、側面の運用コストを下げることが、結果的に利用者にとってのメリットになる。

また、今年の介護保険制度改正・報酬改定などの際も、更新は自動で追加工賃も発生しない。更新される部分については、画面にもわかりやすく表示している。今後、側面の運用コストを下げることが、結果的に利用者にとってのメリットになる。

「ペッパー」アプリを共同開発

グッドツリーは、最初は接客などの活用に、介護事業コンサルティンク（仙台市）と協同で、顔認識機能などを活かした見守りなど、どちらかというスタッフの補完的役割が大きいと考えている。すでにグッドツリーとは、介護システムにおいて、協力関係にあり、ロボットについても現場で真に役立つアプリを協同で開発していきたい」と話す。

グッドツリーは、最初は接客などの活用に、介護事業コンサルティンク（仙台市）と協同で、顔認識機能などを活かした見守りなど、どちらかというスタッフの補完的役割が大きいと考えている。すでにグッドツリーとは、介護システムにおいて、協力関係にあり、ロボットについても現場で真に役立つアプリを協同で開発していきたい」と話す。

Pepperは人口知能を有するロボットで、アプリを追加することでさまざまな活用方法が期待されている。現在は、デイサービスのレクや食事のメニュー紹介などで活躍中。利用者も興味を示しており、その存在感は小さくない。

オールスターLabの齋藤善夫社長は「最新の介護現場で活躍中。利用者も興味を示しており、その存在感は小さくない。」



▲昼食のメニューを紹介